

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 6 月 10 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/10 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	23.7	3.9 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	32.7	6.42 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.07 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	30.4	0.23 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

電源停止作業に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.5
2号機	循環冷却システム	運転中	23.3
3号機	循環冷却システム	運転中	23.2
4号機	循環冷却システム	運転中	22.5

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/9 16:30 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	6/9 16:50 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/10 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	運転中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28 ~ 4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/6/8 10:00 ~ 16:22 地下水バイパスにおける一時貯留タンク(Gr1)に貯留してある水について、5/28に採水し水質

確認を行い、当社および第三者機関による分析結果において、運用目標値を満足していることを確認したことから、海洋への排水を実施(排水量:1563トン)。

同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

・H26/6/9 10:15 頃 5・6号機北側Fタンクエリアの滞留水処理装置(淡水化装置)より、濃縮水がトレーラー内に漏えいしていることを当社社員が発見。処理装置自体は専用のトレーラーに積載されており、トレーラー内の漏えい範囲は、約1.5m×約5m×深さ約3mm。

同日10:20に当該装置を停止したところ、装置からの漏えいは停止したが、トレーラー外に1秒に2滴程度漏えいがあり、ビニール袋にて養生を実施。トレーラーは堰内に設置されており、漏えいした水は堰内にとどまっているため外部への流出はない。

<漏えい発生箇所における線量測定の結果>

・雰囲気線量(地面から約100cm離れた位置)

70μm線量当量率(ベータ線) 0.000mSv/h

1cm線量当量率(ガンマ線) 0.003mSv/h

バックグラウンドの測定値も0.003mSv/h(ガンマ線+ベータ線)と同等。

また、漏えいした水の分析を行った結果は以下の通り。

・セシウム134: 3.6×10^2 Bq/L

・セシウム137: 1.0×10^3 Bq/L

・全ベータ: 9.3×10^3 Bq/L

漏えい箇所は、当該装置に設置されている導電率計のフランジ部であることを確認。漏えい量は、当該装置のトレーラー内に約23リットルおよびトレーラー外に約44リットルの合計約67リットルと推定。漏えいした原因については、引き続き調査中。

・H26/6/9 11:55 頃 Bタンクエリアにおいて配管寸法確認を行っていた作業員が、免震重要棟において汚染検査を受けたところ、顔面および鼻腔内に放射性物質の付着が確認された。ただちに当該作業員の顔面および鼻腔内に付着した放射性物質の除染を行った上で、福島第一原子力発電所を退域し、内部取込みの恐れがあることから、同日15:34にIヴィレッジにてホールボディカウンタ(全身測定)*を受検。その結果、今後50年間に受ける放射線の量は0.51mSvと評価され、記録レベル(2mSv)未満であり、問題のないことを確認。

今回の顔面汚染は、当該作業員が現場作業を行ったゴム手袋を交換せず、全面マスクの装着状況を手直した際に、全面マスク内部に汚染が入り込んだものと推定。

* ホールボディカウンタ:体内にある放射性物質を体外から測定する放射能測定装置。

・H26/6/9 ~ 1号機原子炉格納容器下部の止水に向けて、カメラによるトラス室壁面調査を実施中。

[地下水バイパス揚水井の状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

<最新のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果]

<トピックス>

・H26/4/14 ~ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンク建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

5/26 10:52 ~ 焼却工作建屋滞留水のうち焼却建屋側からプロセス主建屋への移送を開始。また、移送開始後に漏えい等の異常がないことを確認。なお、本移送については、6月上旬頃まで行う予定(平日の日中のみ実施)。

< 最新の水位 >

焼却建屋:6/10 11:01 回収作業が完了。

工作建屋:5/16 10:30 回収作業が完了。

< 最新のサンプリング実績 >

・大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上